

令和6年度 園自己評価表

社会福祉法人 清香会
高円寺りとるばんぷきんず

園は常に質の高い保育が求められている。

そのために自己評価を通し保育の専門性を見つめる機会として評価を実施し、さらなる保育の向上を目指していく。

【評価指標】

- A … 適正
- B … 一部改善を要する
- C … 改善を要する

【評価内容】

1、保育理念・目標・計画・評価

内容	評価	意見・改善策
保育所保育指針と保育理念・目標の関係を理解し、全体の計画を作成している	A	保育所保育指針をもとに保育の計画を作成している。
全体の計画に基づいた具体的な指導計画を作成している	A	今年度の組織テーマ「ゆとり (you to little) を掲げ、保育テーマ「you」ともつながりを持ち、定期的な保育の振り返りを行うことで、より良い保育を実践することが出来るように日々研鑽している。職員も個別目標を設定し、専門性及び人間性の向上に努めている。
多様な保育需要に対して地域や保育所の特性を考慮した柔軟な計画を作成している	A	
各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢にあった指導計画・個々の発達にも留意したものを作成している	A	
保育士は自らの保育実践を振り返り評価し専門性の向上や改善に努めている	A	

2、保育内容

子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう必要な事項に配慮して保育をおこなっている	A	発達過程や連続性を踏まえた計画をもとに、保育に必要な計画を立て、実施している。子どもが主体的に活動することが出来るよう、選択制の保育を実施し、日々の保育のなかに取り入れることができています。行事ではそれぞれにテーマを設定し、エデュテイメントの取り組みを意識してきました。
子どもの気持ちを理解し信頼関係を築いている	A	
子ども達が日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に勤めている	A	
身体的、精神的、情緒的発育や家庭環境及び食事習慣など、総合的に多面的に子どもの状態を把握している	A	
行事の計画・実施・評価・改善の体制をとっている	A	

3, 園の組織・役割分担

内容	評価	意見・改善策
豊かな集団の育成を目指したクラス経営が進められ、各クラスの連携が円滑に行われている	A	翌週の保育運営について毎週会議をおこない、クラスの垣根を超えた連携をとっている。人間性、専門性については法人研修・園内研修などを行い、報連相についても年数別研修や園内研修で振り返る機会を設け意識の向上を図った。危機管理の面では、火災地震等の危機管理訓練に加え、ハザードマップを用いた水害時の対応、不審者訓練、救急隊の方々によるAED訓練のほか、熱性痙攣時の対応についても常勤・非常勤関係なく職員全体で理解を深めた。
保育に関わるさまざまな知識や技術の向上に努め研修に参加し、自己研鑽を積んでいる	A	
全職員は施設内外の環境維持向上に努め、安全策の共通理解や体制づくりに努めている	A	
職員間で報告・連絡・相談の体制が機能している	A	
火災・地震・不審者侵入などの危機管理に努めている	A	

4, 家庭・地域社会

家庭と連携を図るように努めている	A	行事では事後アンケートをとり、保護者の意向を聞き取り、見えてきた課題に対しては、できる範囲で次の機会に反映するようにした。子育て講座や園見学を毎月設ける中で、調理師による離乳食講座を設定し、地域の方からも好評だった。
関係機関と連携を図っている	A	
地域や保護者の意見を施設運営に反映している	A	
地域の子育て家庭に対し情報発信をしている	A	

5, 事務管理・運用

個人記録簿は適切に記載し整理保管している	A	定期的に書類記入、保管の見直しをし、整理をしている。守秘義務については職員研修のなかで共通理解を図っている。
職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務の周知徹底をしている	A	
各種会計を適正かつ適切に処理している	A	

6, 情報発信

園だより、クラスだより、給食だより、ホームページなどで施設の情報を発信している	A	園での様子が分かるよう、毎日の連絡帳にて園の情報を発信している。そのほか活動の様子が分かる動画をモニターに映すなど、園での様子や情報を発信できるよう工夫した。また、幼児クラスは毎日欠かさずブログをアップし、活動の様子を写真とともにお知らせしてきた。
---	---	--

※令和6年度に第三者評価を受審し、評価結果は、東京福祉サービス第三者評価に掲載